別冊１

令和元年度
教育委員会の事務に関する点検・評価報告書
（素案）に対する意見書

第2章　施策別点検・評価

施策１　幼児教育の振興・充実

政策名	１「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	１　幼児教育の振興・充実	担当課	小中一貫教育・施策推進課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○今まで以上に幼保小の連携を強化するとともに、幼稚園や保育所に在籍する発達障害等が疑われる幼児の支援を強化するために、支援員を配置する必要があるのでないか。		
	○人間形成の基礎となる教育のため、最大級の支援をしていただきたい。		
	○幼保小の連携の取り組みが前向きに行われ、成果を挙げている事は評価できます。子どもの数が減少傾向にありますが、より教育の質を高める取り組みをしてください。		
	○幼・保・小連携の重要性は近年言われていることであり、今後も継続した取組を進めていただきたい。市内での認定こども園や新制度移行園等、幼保連携の動きも小学校教員は知る必要がある。また、幼稚園教育要領について、5領域の学びや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など、知っておくべき内容について研修を深める必要があると考える。 ○障がいをもつ幼児が幼稚園（札幌市）の生活上の様々な困難のため、登園不可能になり、事実上退園して、今は自宅と児童デイサービスでの預かり・教育しか受けていないという話を聞いた。北広島市での障がいをもつ幼児の学びが保障されるような加増配置や特別支援学級設置に向けた取組をお願いしたい。		
	○小1プログレムへの対処も鑑み、教職員と保育士等の交流・情報交換の必要性をなお一層感じる。特に特別な支援が必要な子に対する対処の仕方について情報の共有を図っていけるとよい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・幼保小の連携は小学校への円滑な接続を図る上で重要なので、今まで以上に幼保小の連携を強化し、情報交流や授業交流を充実していただき、幼児教育と小学校教育双方への理解を深める取り組みを進めていただきたい。 ・人間形成の基礎となる大切な時期の教育になるため最大の支援が必要であることから、障がいをもつ子や特別な支援を必要とする子の学びが保障されるように保護者や教育機関、関係機関等で情報の共有ができるよう、連携した取り組みを検討していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・幼保小の連携は小学校への円滑な接続を図る上で重要なので、今まで以上に幼保小の先生方の情報交流、授業交流を充実していただくとともに、次年度就学予定児やその保護者を対象とした公開授業等を計画し、小学校教育への理解を深める取り組みを進めていただきたい。 ・人間形成の基礎となる大切な時期の教育になるため最大の支援が必要であることから、福祉課で配布している「きたひろサポートファイル」などを広く保護者や教育機関等で共有できるよう、関係機関等と連携した取り組みを検討していただきたい。

施策２　豊かな心を育む教育の充実

政策名	1 「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	2 豊かな心を育む教育の充実	担当課	教育総務課、学校教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○豊かな心を育む教育の重要性を、すべての指導者が認識して推進していただきたい。		
	○子どもたちの読書活用をより活発にするためには、平成30年度から大曲地区で実施している「まちなか司書」を他地区に拡大していく必要があるので、今から成果と課題を整理して、どのように広げていけば良いかの計画作りをする必要があるのではないか。		
	○「生きる力を育む」言っても、実際には子どもたちそれぞれの置かれた立場で、最適な指導法は変わるでしょう。 ○個性に合わせた最適な学びを実現できるように、北広島らしい取り組みを考え、継続して欲しいと思います。		
	○まちなか司書（図書館司書巡回配置）は、図書館運営に非常に寄与していただいている。人員の増により、毎週の配置となるように要望願いたい。		
	○今後も全小中学校への、心の相談員の配置を望む。また、SCやSSWがさらにスムーズに活用できるよう緊密な連携を望む。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・「生きる力を育む」ため、子どもたちの置かれている立場を把握し、それぞれの個性に合わせた最適な学びを実現できるように、北広島らしい取り組みを考え、継続して取り組んでいただきたい。 ・心の教室相談事業について、今後も適切な対応や支援に結びつけられるよう継続していただき、SCやSSW等との連携がスムーズに行われるような仕組みづくりを進めていただきたい。 ・学校図書館活用事業については、子どもたちの読書活用をより活発にするため、「まちなか司書」の増員と他地区への拡大を進めていただけるよう、成果と課題を整理し、拡大を検討していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・心の教室相談事業について、子どもの取り巻く環境が複雑化する中、学校生活の安定に不可欠であることから、今後も継続するとともに、相談員の定期研修による資質の向上や相談員間の情報交換、職員室との連携により取組を強化していただきたい。 ・学校図書館活用事業については、子どもの読書活動推進のため、学校司書の増員及び現在大曲地区においてモデルとして実施してる「まちなか司書」の拡大を検討していただきたい。

施策３　確かな学力を育てる教育の充実

政策名	１「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	３　確かな学力を育てる教育の充実	担当課	小中一貫・教育施策推進課、 学校教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○日常の教育実践から、主体的な学習態度を身につけ、確かな学力の定着を図る手答えを蓄積していっていただきたい。		
	○社会の変化に対応した教育という事で、新しい取り組みが語学やICTの教育で始まっています。しかしながら、学びの原点は「読み書きそろばん」の言葉にあるように、基本的な素地を確立するところにあります。その意味では、施策の方向性や内容は正しいと考えます。		
	○中学校区スタンダードの見直しを行っている地区もある。児童生徒がより意識して学習に取り組めるような改善を今後も図っていく必要があると考える。		
	○今回のコロナによる休校が子どもたちの学力や情操等にどのように影響をしているか調査し、対策を講ずることが必要ではないか。		
	○学校教育相談員の活用事業については、積極的な活用を進めていきたい。各中学校区で、各種学力調査や、スタンダードの検証を行っているが、結果についても広く地域に知らしめる必要がある。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・学校教育相談員活用事業については、今後も指導主事の配置を継続していただき、各学校の教育課題の解決に取り組んでいただきたい。 ・学力向上推進事業については、児童生徒が主体的な学習態度を身につけ、確かな学力の定着を図る取り組みを今後も進めていただき、中学校区ごとで行っている各種学力調査やスタンダードを検証し、その結果の周知についても検討していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・学校教育相談員活用事業については、各学校が抱える教育課題の解決に成果を上げており、指導主事の配置を継続していただきたい。 ・学力向上推進事業については、学力検査等の分析をしっかりと行い、市として育みたい資質や能力を明らかにして目標設定し、学力向上に結びつく取り組みを進めていただきたい。

施策４　健やかな体を育てる教育の充実

政策名	1 「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	4　健やかな体を育てる教育の充実	担当課	教育総務課、学校教育課, 給食センター
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○有効な食育を実践することで、体づくり、体力の向上を図っていただきたい。		
	○教員の多忙化解消及び負担軽減を図るため、部活動指導員の確保を充実させ、本事業の更なる発展・拡大を望みます。		
	○望ましい食習慣の推進で、小学校の朝食については97%と高い数値になっています。あと少しで100%なので頑張っていただければと思います。（小中ともに）		
	○部活動指導員制度運用事業については、教員の多忙化解消につながる専門家の投入について高く評価する。また、部活動休養日の完全実施や留守番電話の設置、同家庭への周知についても、高く評価する。教職員の長時間勤務が改善されるよう、引き続き様々な施策を展開いただきたい。		
	○体力向上事業について専門的知識をもった指導を行い、児童の体力・技術の評価をすることにより、向上が期待できるので進めていただきたい。		
	○小学校給食センターの新築により、従来よりも安全かつおいしい給食が提供されることを楽しみにしています。今後とも、食育の充実のために教育現場に助力いただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・食に関する指導の推進事業について、有効な食育を実践することで、朝食の取得だけでなく、望ましい食習慣の推進、体づくりや体力の向上にもつながることから、教育現場と家庭が連携した取り組みを進めていただきたい。 ・給食については、より安全かつおいしい給食が提供されるよう、引き続き、給食内容の充実に取り組んでいただきたい。 ・部活動指導員制度運用事業については、教員の多忙化解消及び負担軽減等につながるとともに、専門的な外部指導者が指導することで、子どもたちの知識・技能を高める効果も期待できることから、発展・拡大に取り組んでいただきたい。 ・体力向上事業について、専門的知識をもった指導を行い、児童生徒の体力・技術の評価をすることにより、向上が期待できるので進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・食に関する指導の推進事業について、食は人間の体づくりの基本であることを踏まえ、朝食の取得だけでなく、朝食の内容についての指導を深めるなど、家庭と連携した取り組みを進めていただきたい。 ・給食については、地域の食材を取り入れたり、アレルギー対応などが進んでおり、引き続き、給食内容の充実に取り組んでいただきたい。 ・部活動指導員制度運用事業については、働き方改革への取り組みを進めるうえでの教員の多忙化解消等につながるとともに、専門的な外部指導者が指導することで、子どもたちの知識・技能を高める効果も期待できることから、積極的に取り組んでいただきたい。

施策５　ＩＣＴの活用による教育の充実

政策名	1 「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	5 ICTの活用による教育の充実	担当課	教育総務課、 小中一貫・教育施策推進課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○新型コロナウイルス禍の休校対応としてオンライン学習が行われたが、実用化には至っていない。不登校児童生徒の対応を念頭に実用化を考えていただきたい。		
	○教員のICT活用のための研修は特に重要と思います。得てしてよくわかっている先達者は多すぎる情報を与えようとする傾向があります。学び初めの者の立場からは、理解が追いつかず、とまってしまう場合も見受けられます。なるべく単純でわかりやすい機材、システム、研修を用意して欲しいと思います。 ○子どもたちについては、放課後の学習環境の差が心配されます。家庭環境について、情報機器やネット利用の環境差があれば、何らかの配慮が必要と思います。		
	○タブレット端末の導入や最新機器へのアップデート、メンテナンスの体制も整えており評価できる。量的な導入は進んでおり、今後は、質的なICTの活用について積極的に取り組んでいただきたい。例えば教員の研修等の充実に加えて、専門知識を持つ外部講師の学校現場への積極的な投入を推進して頂きたい。 ○学校現場にいる通常学級担任が最もLD児の発見・サポートに関わることができ、早期支援へ繋げられることから、教員へのICTを用いたLD児支援の最新情報を浸透させていただきたい。特に通常学級におけるLD児へのタブレット端末の活用をサポートしていけるような体制づくりを強化頂きたい。LD児のICTを用いた支援の情報としては、「平林ルミのテクノロジーノート」というサイト等をご参照頂きたい。		
	○今回のコロナ騒動から小・中学校におけるAIを活用した授業のあり方を研究する必要があると考える。		
	○GIGAスクール構想が進み、来年末には約3000台のタブレットが整備され、効果的な学習が期待できる。それに伴いWi-Fi環境の整備や、専門指導員の配置等もお願いしたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・タブレット端末の導入や最新機器へのアップデート、メンテナンス等、最新の学習環境に整備されるよう積極的に取り組んでいただくとともに、通信環境や家庭環境などの周辺整備についても取り組んでいただきたい。 ・ICTが有効かつ積極的に活用されるよう、教員への情報提供や支援、外部講師の派遣や専門指導員の配置等についても検討していただきたい。 ・教職員へのICTを用いたLD児等支援の最新情報を浸透させていただき、通常学級におけるLD児等へのタブレット端末の活用をサポートしていけるような体制づくりを進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・最新の学習環境が整備されるよう積極的に取り組んでいただくとともに、それらが有効かつ積極的に活用されるよう、教員への最新情報の提供や技術支援について、民間団体等と連携しながら取り組んでいただきたい。 ・ICTを活用した通常学級に在籍しているLD児等への指導事例等の情報収集・情報提供を行い、積極的に活用されるよう取り組みを進めていただきたい。

施策６　特別支援教育の充実

政策名	1 「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	6　特別支援教育の充実	担当課	学校教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○本市は、特別に支援を必要とする児童生徒のための特殊学級の設置は充実しているが、通級指導教室の設置は少ないと思われるので、せめて2～3校に1校程度の設置が必要ではないか。それが難しいようであれば、東京都新宿区のように通級指導教員を学校に巡回派遣をして指導することも検討してみることが必要ではないか。		
	○努力して取り組んでいる事がわかりますが、学校が一丸となって取り組めるよう、すべての家庭に特別支援教育について正しい理解をくりかえし促すことも大切と思います。		
	○特別支援学級介助員や特別支援教育支援員の配置人数の拡大を検討していることを評価する。読み書き困難等の児童生徒に対する早期の発見と支援を進めるため、最新のスクリーニングテスト等を導入し、そのテスト結果を活用した適切な児童生徒に対するサポート体制を設立してほしい。同取組については、北海道芽室町の実績をご参考頂きたい。 ○通常級の担任が読み書き困難児の早期発見ができるよう、特別支援教育コーディネーターと連携が取れた学校環境づくりを推進して頂きたい。		
	○今後も児童の学びの支援のため、特別支援教育支援員と特別支援学級介助員の適正な配置をお願いしたい。 ○障がいを持つ児童の居場所として、放課後デイサービスの利用が増えていると聞いている。支援センター未来の指導の下、児童の居場所づくりや人間関係づくりに適正に取り組むように今後も支援・指導をお願いする。		
	○専門性を有する支援員の配置や、各関係機関との更なる連携を望む。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・特別支援教育の質の向上を図るため、特別支援学級担当教員や特別支援教育支援員等の適正な配置、通級指導教室の設置を進めるとともに、各関係機関とのさらなる連携した取り組みを進めていただきたい。 ・読み書き困難等の児童生徒に対する早期の発見と支援を進めるため、最新のスクリーニングテスト等の情報を収集し情報提供するとともに、特別支援教育コーディネーターと連携が取れた学校環境づくりを進めていただきたい。 ・特別支援教育について、正しい理解の周知を繰り返し促し、今後も児童生徒の居場所づくりや人間関係づくりを支援していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・特別支援教育の質の向上を図るため、特別支援学級担当教員や特別支援教育支援員等の計画的な専門研修及び配置を進めるとともに、特別支援学校教員免許状取得者の配置を進めていただきたい。 ・読み書き困難等の児童生徒に対する早期の発見と支援を進めるため、最新のスクリーニングテスト等の情報を収集し情報提供するとともに、それらの活用に向けた取り組みの検討を進めていただきたい。

施策７　社会の変化や課題に対応した教育の推進

政策名	1 「生きる力」を育む学校教育の推進		
施策名	7　社会の変化や課題に対応した教育の推進	担当課	教育総務課、学校教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○次世代に予想される未知の状況への対応能力の育成を図っていただきたい。		
	○学習指導要綱の改訂に対応した、令和元年に指導助手2名の増員を評価する。 ○小学校の英語教育導入に伴い、英語型の読み書き困難児が今後出てくることが想定されるため、指導助手が児童への英語教授法の能力を有しているかを精査した上で採用頂きたい。		
	○外国語指導助手活用事業について、小学校の高学年・中学年の外国語科・外国語活動の時数増に合わせて、増員していただきありがたい。今後も人数の確保をお願いしたい。		
	○外国語指導助手活用事業や日本人外国語指導助手の更なる有効活用や、専科制も視野に置き、専門性の向上と小学校担任の負担軽減に努めていただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・変化の激しい社会の中で、次世代に予想される未知の状況への対応能力の育成に向けた取り組みを進めていただきたい。 ・外国語指導助手活用事業については、今後も外国語科・外国語活動の時数増に合わせた、人数の確保に引き続き取り組んでいただき、日本人外国語指導助手の更なる活用や専科制も視野に置き、専門性の向上と小学校担任の負担軽減に向けた取り組みを進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・超スマート（Society5.0）時代に予想される激動の時代の到来に向け、2030年以降の社会を展望した教育政策を重点化し、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成に向けた取り組みを進めていただきたい。 ・外国語指導助手活用事業については、外国語指導助手の選考の段階から、知識・技能だけでなく資質についても基準とし、市民や民間等との協働による日本人外部講師等を積極的に活用するなど、教員の指導力向上を図るとともに、スムーズな外国語の導入に向けた取り組みを進めていただきたい。 ・姉妹都市子ども大使交流事業については、郷土学習や平和教育について学ぶ大変有意義な交流事業であることから、継続して実施していただきたい。

施策８　開かれた学校づくりの推進

政策名	2　信頼され、魅力ある学校づくりの推進		
施策名	8　開かれた学校づくりの推進	担当課	学校教育課、小中一貫・教育施策推進課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○西部中学校区に導入されたコミュニティ・スクールの成果のまとめや報告の予定を明らかにし、今後どのような形で全市に拡大していく予定かを早急に示してほしい。		
	○コミュニティ・スクール事業について、全市の中学校区での実施を目ざしているが、人材の確保が心配される。		
	○学校評議員や学校関係者評価について、広く意見を求める制度は定着したものと思います。 ○コミュニティ・スクールについては、他地域が注目するような「北広島らしい」取り組みを期待します。		
	○コロナ禍において、学校行事での地域の方の招待や参観、外部講師の依頼などに制約が出ているが、今後も感染の状況を鑑みながら、地域への公開等を進めていくとよい。		
	○緑陽中学校区では、今年度からの導入を始めたが、さらに広く地域住民に活動内容を広め、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・コミュニティ・スクール推進事業については、実施校での成果と課題を洗い出し、他地域が注目するような「北広島らしい」持続可能な取り組みとなるよう、学校・家庭・地域への情報発信と理解を広める取り組みを進め、全中学校区でのコミュニティ・スクール導入に向けて計画的に取り組みを進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・コミュニティ・スクール推進事業については、実施校での成果と課題を洗い出し、地域性を踏まえた持続可能な体制となるよう、学校・家庭・地域への情報発信と協働への理解を深める取り組みを進め、計画的な全中学校区でのコミュニティ・スクール導入に向けた取り組みを進めていただきたい。

施策９　教育環境の整備

政策名	2　信頼され、魅力ある学校づくりの推進		
施策名	9 教育環境の整備	担当課	教育総務課、学校教育課、 小中一貫・教育施策推進課、 社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○各項目とも経費の問題があるでしょうが、しっかりと取り組んで下さい。小中一貫教育推進事業については、意識の変化があったとのことで注目しています。		
	○事務機器等の整備・保守が確実に行われており評価できる。特にカラープリントや用紙サイズの多様化が可能となり、児童生徒が読みやすく、課題に取り組みやすい環境が整えられた。 ○小中一貫教育の取り組みについては、授業交流や合同授業が実施されていることを評価する。学力の評価手段となるペーパーテストについては、小学校では市販のテストを取り入れている一方で、中学校になると各教科担任の作成するテストになっており、テストの書式や体裁が多様化する。テストの書式・配置・読みやすさのギャップに児童生徒が混乱することが想定されるため、中学校でもテストの書式の標準化を検討して頂きたい。		
	○教師用指導書等整備事業では、2年度の小学校教科書改訂に合わせて、小学校では指導書の配置をしていただいた。今後とも教育の充実のためお願いしたい。		
	○来年度の小中一貫教育全国サミット開催に向け、事業の様子や成果を広く知らしめることが重要である。学校支援地域本部事業とCSの事業が効果的に連携し、学校支援に当たれるようになるとよい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・教師用指導書等整備事業について、小学校教科書改訂に合わせて指導書の配置をしていただいた。今後も教育の充実のため取り組みを継続していただきたい。 ・小中一貫教育推進事業については、授業交流や合同授業などが実施され「中一ギャップ」の解消に寄与していることから、今後もより充実した取り組みになるよう、小中学校での書式の標準化等についても検討していただきたい。 ・来年度の全国サミット開催に向けて、事業の様子や成果がわかるよう取り組みを進めていただきたい。 ・学校支援の内容は多岐にわたるため、学校支援地域本部事業と関係機関が連携して効果的に学校支援に当たれるよう取り組みを進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・学校が教育のための施設であるとともに、防災や地域の交流の場等様々な機能を併せ持つことを踏まえ、今後の学校施設の改修等の計画や長寿命化計画などについて、市民等へ積極的な情報提供を行いながら進めていただきたい。 ・教育活動全体で、ユニバーサールデザインの視点を取り入れた活動がなされるよう、教材の工夫や教職員への情報提供、研修を進めていただきたい。

施策１０　家庭の教育力向上への支援内容の充実

政策名	3　やさしく支えあう教育連携の推進		
施策名	10　家庭の教育力向上への支援内容の充実	担当課	学校教育課・社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○学校以外で子どもの教育については、家庭教育は重要で、そこの教育力を底上げすることが必要です。手を抜かずに丁寧に進めてほしいと考えます。		
	○「子ども朝活」事業の内容が知りたい。「子ども朝活」事業の啓発・発信が必要か。		
	○喫緊の課題であると考える		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・学校以外での子どもの教育については、家庭教育が重要であるため、生活習慣の向上や自立心の育成など「家庭の教育力」の向上にむけて、丁寧な支援や方策の検討を進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・就学前の幼少期から、子どもの発達段階に応じた取り組みを通じて、親と子どもの双方が年代に応じた「家庭の教育力」を育むことができる方策の検討を進めていただきたい。 ・学校、家庭、地域との連携を深め、課題の共有化を図り、それぞれの果たす役割を明確にし、地域総がかりで子どもを支える体制の構築に向けた取り組みを進めていただきたい。

施策１１　教育相談体制の充実

政策名	3　やさしく支えあう教育連携の推進		
施策名	11　教育相談体制の充実	担当課	学校教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○NPOこどもサポート隊解散後の不登校・いじめ等の相談事業や支援体制をどのようにしていけばよいか。学校だけでは手が回らないと思うので、早急に全市的な支援体制づくりを考える必要があると考える。		
	○不登校児童生徒を孤立させることのないよう、それぞれに適した方法で、関係機関と連携して対処していっていただきたい。		
	○いじめや不登校の問題については、個々のケースにより事情が違う他、心のありかたが問われるため、時間をかけて取り組む必要があります。大変でしょうがひとりひとりに向き合った対応ができる体制維持を今後も続けていただければと思います。		
	○不登校いじめ対策・教育相談事業は不登校やいじめが無くならない状況の中、不可欠なものである。継続していただきたい。		
	○専門的知識を有する人材や、関係機関との迅速で適切な連携を望む。（問題に対して素早い対応を）		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・不登校いじめ対策・教育相談事業は、不登校やいじめが無くならない状況の中で不可欠なものであることから、継続していただきたい。 ・個々のケースによる様々な相談内容に応じて、適切な支援が行われるよう、関係機関と連携し、ひとりひとりに向き合った対応が可能となるようなフォロー体制の構築に向けた取り組みを進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・不登校やいじめが無くならない状況の中、不登校いじめ対策・教育相談事業は不可欠なものであることから、継続していただきたい。 ・複雑化していく相談内容に応じて、子どもだけでなく保護者へも適切な支援が行われるよう、退職教員等の配置や関係機関（市役所福祉課、子ども家庭課、児童相談所、心療内科等）との連携による教育相談体制を充実するとともに、様々な選択肢が可能となるようなフォロー体制の構築に向けての検討を進めていただきたい。 ・北広島市いじめ防止基本方針に基づき、児童生徒の実態に応じて、道徳教育や体験活動の見直しや重点目標の見直しを柔軟に行うなど、教育活動を通じた未然防止に向けた取り組みを強化していただきたい。

施策１２　地域が支える健全育成活動の充実

政策名	3　やさしく支えあう教育連携の推進		
施策名	12　地域が支える健全育成活動の充実	担当課	学校教育課・社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	これら地域の健全育成活動がCSの活動の一環になっていくとよい。		
	○青少年に対する健全育成活動を充実するためには、学校や家庭だけで取り組んでも成果を上げることは難しいと思うので、交通安全指導員、青少年育成委員会、地域活性化委員、警察等との連携を強化するためにも、教育委員会等がコーディネートをして、ネットワークづくりや定期的な会合を行う必要があるのではないか。		
	○この問題は簡単ではなく、継続した取り組みが必要です。今後、さらに少子高齢化が進んだ時の、こそもの健全育成活動に関わってくれる大人の増減が気になります。新しい世代、若い人材確保のための取り組みが必要と考えます。		
	○放課後子ども教室事業について、子どもの居場所づくりに寄与していると聞いている。ただ、全小学校での実施に至らない背景には、人員確保の難しさがあると聞く。市民の参画を促すような働きかけが必要ではないか。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・青少年に対する健全育成活動を充実するため、学校や家庭だけではなく、関係機関等と連携した取り組みにつなげられるよう、ネットワークづくりや機会の創出について検討を進めていただきたい。 ・放課後子供教室事業について、子どもの居場所づくりに寄与していることから、今後も充実した取り組みとなるよう、市民参画を促すような働きかけをしていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・子どもの放課後の過ごし方などの実態把握を行い、非行や問題行動の原因分析を進め、家庭での過ごし方などについて保護者や地域と課題を共有し、連携した取り組みを進めていただきたい。 ・成果指標について、少子化や数値的裏付け、統計的手法を踏まえ、より有効でわかりやすい指標や目標値への見直しを検討していただきたい。 ・放課後子供教室事業について、学校とボランティアの連携を深め、児童の情報共有を図るとともに、学年に応じた活動や活動目標を明確にした教室を展開していただきたい。

施策１３　市民の学習活動への支援内容の充実

政策名	4　学びあい、教えあう社会教育の推進		
施策名	13　市民の学習活動への支援内容の充実	担当課	社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○今年の新型コロナウイルス禍によるサークル活動の中止や生涯学習振興会事業の中止から、それぞれの活動のありがたさが実感できた。		
	○高齢者の生活の充実に向けた生きがい・やりがいづくりに今後も励んでいただきたい。趣味の活動の後押しや、健康増進をねらいとした生涯学習の充実を期待する。		
	○元気フェスティバルについては企画の練り直しが必要なのかもしれません。一般論になりますが、生涯学習は生活を豊かにするために必須の取り組みと考えます。趣味やお稽古ごとだけでなく、市民大学のような教養や専門性を高める取り組みが重要です。その意味では、生涯学習活動を志す団体への支援と育成は重要課題と考えます。		
	○市民が活動を発表する場となって生きがいを見出していることから、継続していただき、参加する市民を促す取り組みを工夫していただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・生涯学習活動は、市民生活の生きがい・やりがいづくりの機会となっているので、活動団体への支援と育成をしていただくとともに、参加する市民を促すよう、活動の充実や情報発信に取り組んでいただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・市民の生きがいづくりや主体的な学び、コミュニティ形成の機会となっていることから、継続していただくとともに、学習内容の充実や情報発信等により、参加していない市民の参加を促すなど、取り組みを工夫していただきたい。

施策１４　地域や世代を見据えた学習機会の充実

政策名	4　学びあい、教えあう社会教育の推進		
施策名	14　地域や世代を見据えた学習機会の充実	担当課	社会教育課、文化課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○今回のコロナ騒動を考えると、国際交流事業等については交流国や交流団体等とのオンラインによる交流のあり方について検討する必要があるのではないか。		
	○フレンドリーセンター運営事業については「今後の方向性」の指摘のとおり、見直しが必要と考えます。事業に参加した人、しなかった人の意見を良く聞いて、どのような形が求められているか、こちらで考えた方向性との差を検討して、目的達成に向けて改良していただければと思います。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・国際交流事業については、社会情勢に対応できるようオンライン等による交流のあり方についての検討を進めていただきたい。 ・フレンドリーセンター運営事業については、主体的な学習活動を支援し、多様な力を育成する学習機会の提供となるよう事業のあり方について検討を進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・変化の大きな社会に対応した学び直しの機会となり、社会の持続的な発展をけん引するための多様な力を育成する学習機会の提供となるよう検討を進めていただきたい。

施策１５　施設の充実による学習環境の整備

政策名	4　学びあい、教えあう社会教育の推進		
施策名	15　施設の充実による学習環境の整備	担当課	社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○事業の実施結果、利用者増につながっていないと見えますが、北広島市だけではなく、北海道、日本と人口減少なので致し方ない面があります。成果指標を利用者数（増）に求めず、「施設や環境を整備する→利用者が増える」という図式と違う成果指標を検討してはいかがですか。		
	○ボールパークが完成する前に、レクリエーションの森とボールパークを一体化する活動を検討していく必要があるのではないか。		
	○市民がより利用しやすい施設となるよう、引き続き整備を推進していただきたい。		
	○レクリエーションの森の活性化や整備をBP関連で道路整備が進められることに絡めて行えると、せっかくの自然を生かした施設の活用が推進されるのではと考える。		
	○気軽に利用できる物的・人的環境を整備していただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・社会教育施設について、関連施設とも連携を図りながら、市民がより利用しやすい施設となるよう、引き続き物的・人的環境の整備を推進していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・社会教育施設について、市民がより利用しやすい施設となるよう、引き続き整備を推進していただきたい。

施策１６　　エコミュージアム構想の展開

政策名	5　郷土愛を育む教育活動の推進		
施策名	16　エコミュージアム構想の展開	担当課	エコミュージアムセンター
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○体験型の活用イベントを開催したり、情報発信の工夫で来場者数を増やしていただきたい。		
	○本件と外れますが、エコミュージアム構想で過去の歴史や文化の遺産を指定するだけではなく、今から20年後、50年後に文化遺産となるものを（その時も継続しているかもしれないが）今から創っていくことも事業として考えてはいかがですか。（例えば　未来遺産創成事業）		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・市民が身近なものとして感じられるよう、活用方法や情報発信の工夫をするなど内容の充実に向けて取り組んでいただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・多くの市民や町内会、サークル等で有効活用されるよう、活用方法や事業についての情報発信をするなどの取り組みを充実していただきたい。

施策１７　文化財の保存と活用

政策名	5　郷土愛を育む教育活動の推進		
施策名	17　文化財の保存と活用	担当課	エコミュージアムセンター
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○旧島松駅逓は、本来でのクラーク博士ゆかりの地ということで、郷土愛をはぐくむ土壌・施設としての価値は高いと考える。将来的に道の駅等の構想が必要ではないか。		
	○リピーターの確保が今後の課題かと思います。		
	○事業を通じて、市内の文化財を市民にもう少し情報発信し、継続し取り組んでいただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・事業を通じて、継続的に郷土に対する愛着とふるさと意識をはぐくめるよう、周知、啓発に取り組んでいただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・事業を通じて郷土に対する愛着とふるさと意識の高揚に寄与しており、継続して取り組んでいただきたい。

施策１８　図書館サービスの充実

政策名	6　生涯にわたる読書活動の推進		
施策名	18　図書館サービスの充実	担当課	文化課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○図書館サービスは、概ね良好であると考えます。		
	○年間貸し出し冊数が全道的に高い水準を維持していることを評価する。音訳機器の更新を行い、視覚障がい者の読書活動支援を進めていることを評価する。視覚障がい者の他にも読み障がい者も読書を楽しめる様々な媒体の整備を進めて頂きたい。		
	○生涯にわたる読書活動をより充実させるためには、すべての図書を家庭で検索できるようにして、地区分館での貸し出しや返却ができるようにしたり、夜間回収ボックスの設置等工夫してはどうか。		
	○図書館は花ホールと併設ということもあり、駅からの距離を考えても利便性が高い。今後も市民のニーズにこたえた蔵書の管理・新刊の補充をお願いしたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・生涯にわたる読書活動を充実させるため、障がいの有無にかかわらず誰もが読書を楽しめるよう、貸出・返却方法の工夫や、様々な媒体の整備など、読書活動支援を今後も継続して進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・読書バリアフリー法を踏まえ、障がいの有無等にかかわらず読書を楽しめるよう、様々な媒体の整備を進めていただきたい。

施策１９　子どもの読書活動推進

政策名	6　生涯にわたる読書活動の推進		
施策名	19　子どもの読書活動推進	担当課	文化課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○是非学校図書館司書の配置を望む。		
	○「豆次郎」の一か月あたりの利用冊数の調査が未実施なため、基準値10冊の評価方法が不明瞭である。		
	○学校図書館の蔵書の充実や「本」を読む事の大切な事等を教えていただきたい。		
	○市内小学校校でのブックキャラバンの取組は、児童の読書意欲の向上や、読書機会の増加につながり、効果的である。単年度で全小学校は難しいかもしれないが、数年かけてすべての小学校で実施できるとよい。		
	○ネット時代であるがゆえに、子どもたちには読書は必要です。学校やPTAと連携して、子どもの読書を奨励していただければと思います。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・ネット時代であるがゆえに、「本」を読む機会の提供は必要となっており、読むことは重要な学習行動であるという啓発も合わせて、学校図書館の蔵書の充実や、絵本巡回事業、読書支援モデル事業等の活動を引き続き進めていただきたい。 ・ブックキャラバンにより児童の読書意欲の向上や機会の増加につながり、読書活動が進んでいることから今後も継続していただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・学校図書館の蔵書の充実や、絵本巡回事業、読書支援モデル事業を通じて、「本」を読む機会の提供になっており、読むことは重要な学習行動であることから、引き続き活動を進めていただきたい。 ・ブックキャラバンにより児童の読書機会が拡充され、読書活動が進んでいることから、継続していただきたい。

施策２０　個性豊かな地域文化の振興

政策名	7　芸術文化活動の振興		
施策名	20　個性豊かな地域文化の振興	担当課	文化課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○「成果を示す主な指標」についてはやや厳しめの評価と感じます。偏差値57はそう悪い数字ではありませんし、65はかなり高い値です。基準値を再設定されてはいかがですか。		
	○高齢化に伴い、文化団体の会員数の減少が続き、全市的行事の企画運営の担当者がいなくなっている。イベントの集客数の減少もあるので、文化団体活動支援として、活動の企画運営にも関わっていただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・文化賞・スポーツ賞等表彰事業は市民活動にとって大変励みになっている。今後も継続していただきたい。 ・高齢化等に伴い、文化団体の会員数の減少が続いていることから、全市的行事の企画運営の担当者がいなくなっている。イベントの集客数の減少もあるので、文化団体活動支援として、活動や企画運営に関わっていただけるよう、検討を進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・芸術文化ホールの充実により、市民の充実した芸術文化活動の機会の提供となっていることから、継続して取り組んでいただくとともに、ボールパークの建設や北海道日本ハムファイターズ等との連携や協働による、新しい活動の取り組みに向けた検討を進めていただきたい。

施策２１　市民等との連携による芸術文化活動の展開

政策名	7　芸術文化活動の振興		
施策名	21　市民等との連携による芸術文化活動の展開	担当課	文化課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○ボランティアの登録者数はある意味、市民の関心の現れとも言える数字です。登録者数は概ね目標値に達していますので問題ないと考えますが、より多くの関心が得られればと思います。		
	○ボランティア登録者数を増やし、安定した運営の充実に取り組んでいただきたい。		
	○芸術文化ホールボランティアスタッフの募集など、文化活動の推進を引き続き進めていただきたい。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・ボランティア登録者数は、市民の関心の現れの数ともいえる数字なので、市民協働により芸術文化ホールの活動が進められていることから、市民により関心を持っていただけるよう、引き続き文化活動の推進を進めていただくとともに、安定した運営の充実に取り組んでいただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・ボランティア等による市民協働により芸術文化ホールの活動が進められていることから、引き続き、ボランティア等への支援の充実を図りながら取り組んでいただきたい。

施策２２　健康で生きがいのあるスポーツ活動の推進

政策名	8　健康づくりとスポーツ活動の推進		
施策名	22　健康で生きがいのあるスポーツ活動の推進	担当課	社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○成果を示す主な指標のうち「運動・スポーツが好きな児童生徒の割合」が基準値に満たないという事でC評価となっていますが、R1実績数値は決して低くなく、もう少し高い評価でもよいと感じます。スポーツ大会・スポーツ教室などへの参加者は、高齢化とともに減少傾向になるので、仕方ないのかもしれません。この傾向が常態化するようであれば、ニーズに合わせた内容に切り替える必要があるでしょう。		
	○健康で生きがいのあるスポーツの情報発信やスポーツ・運動の苦手な高齢者等を対象とした簡単に体を動かせる運動の情報発信に取り組んでいただきたい。		
	○健康、生きがい、コミュニティづくりの情報が届いても、会場までの乗り物がないので、乗り物の手配も考慮していただきたい。		
	○今後、さらなる高齢化も考えられ、生涯スポーツの重要性は増していくと考える。今後も事業の推進・充実をお願いする。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・健康づくりや生きがいづくり、コミュニティづくりの観点から、他部署と連携を図りながら、スポーツや運動が苦手な高齢者等を対象とした運動の情報発信と、内容の充実、参加方法の工夫について検討を進めていただきたい。 ・今後もさらなる高齢化が見込まれることから、生涯スポーツの重要性は増していくので、今後も事業の推進・充実に取り組んでいただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・健康づくりや生きがいづくり、コミュニテイづくりの観点から、健康推進課などの他部署と連携を図りながら、スポーツや運動が苦手な高齢者等を対象とした理解啓発の情報発信と、内容の検討を進めていただきたい。 ・スポーツや運動が苦手な人へのレクリエーション機会の拡充や、様々な施設の利用促進に向けた情報発信に取り組んでいただきたい。

施策２３　競技スポーツの振興

政策名	8　健康づくりとスポーツ活動の推進		
施策名	23　競技スポーツの振興	担当課	社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○スポーツアカデミー事業の進展に期待します。		
	○競技スポーツ振興の為、トップレベルの技術に触れあう機会の充実を検討していただきたい。		
	○小中学校でのスポーツ賞・スポーツ奨励賞は児童生徒の大変励みになっている。今後も競技スポーツへの援助・助成を進めていただきたい。		
	○ボールパーク建設と合わせて、ぜひ子どもたちにも、トップレベルのスポーツ観戦や、技術に触れる機会を。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・競技スポーツ振興のため、北海道日本ハムファイターズ等との連携によるトップレベルのスポーツ観戦やトップレベルの技術に触れあう機会の充実について検討し、スポーツの振興を図っていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・競技スポーツ振興のため、講習会のほか、競技としてスポーツを行う上での体づくりや栄養に関する勉強会、北海道日本ハムファイターズ等との連携による新しい形でのスポーツ観戦やトップレベルの技術に触れあう機会の充実について検討していただきたい。

施策２４　スポーツ施設の整備と運営

政策名	8　健康づくりとスポーツ活動の推進		
施策名	24　スポーツ施設の整備と運営	担当課	社会教育課
令和元年度教育委員会の事務に関する点検・評価報告書（素案）に対する意見書	○総合体育館等各施設テニスコート等利用促進に向けた事業を情報発信し、利用しやすい方策の検討を進めていただきたい。		
	○市民ニーズに合わせて展開していただければと思います。		

▼

教育施策審議会による意見（たたき台）	・総合体育館やテニスコート等、各施設の利用促進に向けた事業や情報発信をするとともに、市民のニーズに合わせて、利用しやすい方策の検討を進めていただきたい。

（参考）前年度

教育施策審議会による意見	・住民プールの計画的な整備を行い、市民や児童、学校が充実して利用できる環境の整備に取り組んでいただきたい。 ・全国的にプール事故に関する痛ましい事故が発生していることを踏まえ、最新の事故対策の情報を収集し対応を行うとともに、監視員への安全対策への取り組みを強化していただきたい。 ・総合体育館の利用促進に向けた事業や情報発信を展開するとともに、地区の方が利用しやすい方策の検討を進めていただきたい。